

平成31（令和元）年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

平成31（令和元）年度全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学において知識と活用を一体的に問う問題に見直されるとともに、新たに中学校で英語を加えて実施されました。本市の状況は、小学校の国語では全国とほぼ同様（下位）の結果でしたが、算数並びに中学校の全教科で全国平均を下回りました。

全国平均との差について、小学校国語については昨年度よりも縮まりましたが、算数ではやや広がりました。中学校では国語・数学ともに僅かに全国との差が広がりました。

学校毎にみますと、全国平均との差を縮めた学校や各教科・領域で大きく伸びた学校もありましたが、調査科目の平均で全国を上回る学校数は昨年度と同様で、小学校では12校中5校、中学校で8校中2校でした。

本調査は、「国語、算数・数学、英語（中学校）」の学力面だけではなく、家庭での生活習慣や学習習慣を含めた「学習状況」も調査分析の対象としています。

児童・生徒質問紙からは、自己有用感や規範意識、将来への夢など多くの項目で全国と同様・ほぼ同様の傾向にあることがわかりました。一方、朝食摂取、起床就寝時間等の基本的な生活習慣について、もう一度見直す必要があることや家庭での学習時間や読書時間の不足が課題となっています。授業に関しては、小学校で主体的・対話的で深い学びが進められていることが窺われますが、さらに子どもたちが実感できる授業改善に取り組むことが求められます。

学校質問紙からは、家庭学習の定着に向けた学校の取組として「家庭学習の課題を与える」「教職員間の共通理解」などに改善が見られ、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を上回りました。また、学校力向上のため、地域人材活用や保護者の学校支援活動、小中学校間の連携が着実に進展していることがわかりました。

石狩市教育委員会は、学力面で全国平均に届いていない状況にあることや調査結果で明らかになった実態や取組の成果と課題を踏まえ、今後の学力向上への対策を各校と連携し進めてまいります。また、本市では「全国学力・学習状況調査」の他に、市独自に「CRT学力検査」を市内全校で実施しています。各校では、それらの調査結果も合わせて分析し、自校の日常の授業改善を図っています。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年，中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査【国語，算数・数学，英語（中学校）】
- (2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。

「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

5. 調査実施日

平成31年 4月18日（木）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校：市内全小学校12校で実施 512名

中学校：市内全中学校 8校で実施 558名